

日高市立高萩小学校だより

はぎっこ

目指す児童像



ふるさとを愛し、
生きていく力を育む
萩っ子

令和7年度 10月号
校長 原 政幸

「成長は人それぞれに」

「暑さ寒さも彼岸まで」と昔から言われるように、10月は季節の移り変わりを感じる爽やかな気候が期待される月です。秋空のもと校庭で、子ども達は目前に迫った運動会に向けて一生懸命練習しています。私は運動会の練習を見るたびに、子どもの成長はすごいと感じます。一年一年の成長の大きさを思い知らされます。正確な動きを覚え躍動する体力、音楽に合わせたリズム感、全体の動きを考えながら行動する協調性、忍耐力。このような力は一朝一夕に、ましてや小学校の体育の授業だけで育つものではありません。幼児の頃から友達と身体をいっぱい動かして遊んだり、自分で遊びを見つけて挑戦したりして身につけてきたのだと思います。そして1年生は1年生らしく、6年生は6年生らしい生活の中で身体とともに心も成長してきました。運動会の日、子ども達それぞれの成長した姿をぜひご覧ください。

さて、これからの季節は、日没が早まり、家で過ごす時間も増えてきます。子どもの食事や睡眠時間など生活のリズムを規則正しくして過ごすことは、学習への集中力や家庭学習の習慣化を図るために重要であり、学力に大きく影響します。その上で、ご家庭においても「毎日決まった時間に机に向かう習慣」が身につくと、授業で学習した内容の定着を図ることに役立ちます。学年に応じ、各クラスから出る家庭学習の課題として「本読み（音読）」があります。以前に「音読は脳の活性化に極めて効果がある」という脳科学に関わる話を聞く機会がありました。特に「考える」「まとめる」機能を促す脳が鍛えられ、がまん強さや集中力を高めるといった子ども達の将来に役立つ大切な資質を育むことができるということでした。さらに、誰か（家の人）に聞いてもらっていることを意識して、イメージを膨らませて読むと、さらに脳が活性化するということでした。なるほど、声に出せば、気持ちも明るくなり、積極的な構えになります。「音読」は手軽にできるし、よいことばかりです。

「音読」が調子よくできると「読書」への関心も高まります。本好きな子は「文をすらすら読める」「持続力・集中力がある」「精神的に安定している」など学習にもよい資質を持っています。では、本好きな子にするにはどうすればよいか。小学校3年生前後までならやはり「読み聞かせ」が一番効果的だと言われています。高萩小学校では、市立図書館の方々による「お話会」や保護者ボランティアによる「読み聞かせ」を行っています。また、図書整理員さんに蔵書の整理と図書室の整頓をしていただきました。新しい本も増えています。9月は生活目標として「進んで本を読もう」を掲げ、各学級で読書の目標を立てて読書に取り組みました。子ども達が、この秋、一人一人がお気に入りの本と出会い、それぞれに本の楽しさにふれることができるように願っています。

◇ 図書室に新しい本が揃いました。どんどん借りて読んでほしいです。

